

新 生

令和七年九月 十日印刷
令和七年九月二十日発行

新生第七十七巻 第三号



東北新生園入所者自治会

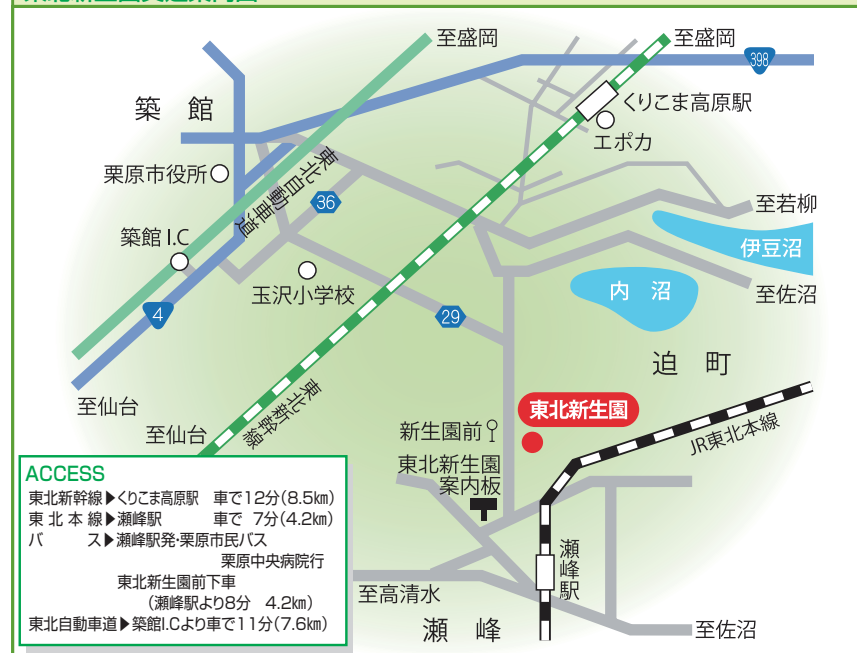
新 生

令和七年九月 十日印刷
令和七年九月二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	22,740㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	185床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男6名 女15名 計21名
職員定員数	130名（令和7年4月1日現在）
園 長	三 國 潤 一

東北新生園交通案内図



第七十七巻第三号

【謝寄贈圖書欄】

令和七年 四月～六月（敬称略）

《四月》
観桜会行事（抽選会）
「庄司恵子&KASUMI」

命の記憶——沖繩愛楽園1975

六 月

— 令和7年7月3日 —



「千本くじ」



「絵札釣り」と景品コーナー



新生・第七十七巻第三号……………目次

赴任のご挨拶……………	庶務係長……………	杉田智宏……………	(2)
赴任のご挨拶……………	医事係長……………	須藤創……………	(5)
ご挨拶……………	一般職員……………	藤田萌……………	(6)
随筆「茨城県の里帰り」……………	齋藤照雄……………		(9)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者……………	佐々木洋一……………	(12)
短歌……………	選者……………	皆川二郎……………	(16)
俳句……………	選者……………	小松温美……………	(18)
川柳……………	選者……………	栗石隆子……………	(20)
よろしく願います……………	看護師……………	道善美枝子……………	(22)
はじめまして……………	看護師……………	亀川初美……………	(24)
百合……………	事務助手……………	遊佐三枝子……………	(26)
四コマ漫画「フリーマーケット」	「メッセージング」……………	太田凛……………	(28)
園内日誌・謝寄贈図書……………			

表紙…「ナツズイセン」

赴任のご挨拶

庶務係長 杉 田 智 宏

皆さん、初めまして。令和七年四月一日の人事異動により、仙台医療センターから赴任しました、庶務係長の杉田と申します、よろしくお願いいたします。

出身は、宮城県石巻市です。平成二十二年に大学卒業と同時に、国立病院機構宮城病院に採用となり、以後仙台医療センター、八戸病院、盛岡医療センター（旧・盛岡病院）、釜石病院、二度目の仙台医療センターと東北管内を転勤して参りましたが、この度ご縁がありまして東北新生園にお世話になることとなりました。

過ごした限りでは、暑すぎず寒すぎず、ほどほどに風が心地よく過ごしやすい土地だと思っております。

しかし、そんな石巻市も平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けました。当時、私は就職一年目がなんとか終わろうとした時で、宮城病院（山元町、こちらも被害が甚大でした）において、家族に連絡がつかず不安になりながら目の前の不測の事態に望んだ記憶があります。あれから十数年が経過し、高速道路沿いにあるイオンタウン周辺を中心に再開発が進み、市全体としてはだいぶ復興してきましたが、昔ながらの港町としては、震災以前の活気はまだ戻っていない状況です。

私は、石巻に帰省するといつも日和山という山にある公園に行き、そこから見える景色を見るのが好きなのですが、かつて住宅や病

ここで、私の出身地である石巻市について紹介させていただきます。石巻市は、北上川河口に位置する港町です。沖には金華山が位置しており、その中にある黄金山神社は、

「三年続けてお参りすれば一生お金に困らない」といったご利益があることで知られています。外にも田代島という、ネコが沢山住む島があり、愛豪家たちには聖地として有名です。また、親潮と黒潮の潮目となっているため、様々な新鮮な魚介類が200種類以上とれます。特に、牡蠣や秋刀魚、ホヤなどがある名です。また、肥沃な土壌の関係から農業も盛んとなっており、トマトやキュウリ、イチゴなども採れます。街の中に、いしのまき元氣市場という施設があり、鮮魚・加工品・野菜・お菓子といった様々な商品が売っていますので、石巻においての際は是非ご利用ください。私感ですが、高校卒業までの18年間で

院があった場所はすっかり別の風景になってしまい、時代の流れをいつも感じています。子どもの頃に栄えていた商店街や、古くからあった映画館がなくなりつつあるのは仕方ないとはいえ複雑な気持ちになります。

ハンセン病については、今まで病院に勤めていたのでその存在は知っていましたが、実は学生の頃から接点がありました。といいますのは、学生時代は群馬県の大学に進学しておりまして、折角関東にいたので気分転換を兼ねて東京に観光をしに行くこととなりました。そのときに、新宿にある東京都庁を見物に行ったのですが、最上階でハンセン病の歴史について展示会やシンポジウムを行ってありました。大学生であった当時は、そういう経緯や歴史があるのかという程度の認識でしたが、数年後に国立病院機構に就職することになり、当時の上司や先輩から経緯を教えて

もらう機会がありました。また、当園赴任後に歴史ツアーに参加し、過去の経緯や現在も残る問題点を学ぶことができました。東京に観光に行ったのが二〇〇八年六月、その月の十八日に「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が公布され、翌年四月一日施行。また、二〇〇九年六月二十二日に「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」が制定され、歴史が大きく動いていたことに、赴任後に改めて気づきました。余談ですが、六月二十二日は私の誕生日でもあり、何か特別なつながりを感じずにはられません。

私は通常は本館で業務を行っており、入所者の皆様とはなかなか接点がありませんが、今まで培ってきた知識と経験を元に、東北新生園に貢献をしていきたいと思っています。また、折角のご縁ですので、ハンセン病の歴

史・知識についても学んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



赴任のご挨拶

医事係長 須藤 創

私は、四月から当園で医事係長を務めている須藤創と申します。

これまでの経歴を説明します。私は青森県津軽地方で生まれ、年内に四〇代に突入します。大学卒業まで実家で暮らしていました。

私の実家の近くには、青森県最高峰岩木山（1624メートル）がそびえていて、岩木山を見ると古里に帰ってきたと感じます。ちなみに津軽地方の人々は、自分が住んでいるところから見る岩木山が一番だと自慢します。私も実家からみる岩木山が一番だと感じます。

平成二十四年に国立病院機構に入職し、同

時に一人暮らしを始めました。最初の青森県八戸病院に合わせて十一年勤務し、経理業務・給与業務及び資金業務を担当しました。

そして令和五年四月に係長に昇任し、秋田県あきた病院へ異動しました。あきた病院では、庶務係長として一年、職員係長として一年勤務してきました。そしてこの度東北新生園入職となりました。

ハンセン病療養所での勤務も医事係長としても初めてで、緊張の毎日を過ごしています。それでも毎月実施の業務には少しずつ慣れてきました。

今後の目標ですが、まず園の年間スケジュールに沿って、業務及びイベントの準備・運営の手順を覚え、少しでも早く園の運営に貢献出来るようにすることです。至らぬ点があるかと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。

ご挨拶

一般職員 藤田 萌

国立病院機構弘前総合医療センターから赴任して参りました、藤田萌（ふじたもえ）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。はじめましてのご挨拶として、私のこれまでに、お話しさせていただきたいと思えます。

私は宮城県唯一の村、大衡村の出身です。幼稚園から中学校までの十一年間は、大衡村の学び舎で過ごしました。高校へ進学するにあたって、両親との熱い協議の結果、大衡村民御用達である近所の高校ではなく、当時出来の悪かった私にとっては難易度の高い高校

を受験することとなりました。十一年間を共に過ごした友人たちと離れ、新たな環境へ飛び込むことはとても勇気のいることでした。しかし今となれば、これが私の人生における分岐点だったと思います。先生たちの目を丸くするほどの猛勉強をしてしまった結果、私は中学の最終成績でオール5を取ってしまうという急成長を遂げ、無事に進学することができました。

高校生活は、幸いなことにも友人に恵まれ、想像以上に楽しくて充実したものとなりました。高校一年生の時に行われた進路面談の際、俳優・三浦翔平氏の担任に「学校の先生になりたい」と話したところ「いいじゃん！一緒に教壇立とうぜ！」と言われたことがあまりにも嬉しく、鵜呑みにしてしまった私は、その言葉だけを糧に三年間を過ごしました。放課後、職員室前の廊下、差し込む夕日、三浦

翔平氏の担任、私がドラマの主人公かと錯覚

してしまうほどのあの光景は、今でも忘れられません。当然それだけで乗り切れることは出来ず、大学受験に失敗してしまった私は、友人に「萌も同じ大学だったら嬉しい」と誘われただけの理由で受験した大学に合格し、晴れて大学生になることが出来ました。

それからの四年間は本当にあつという間でした。新型コロナウイルスの影響で想像もしていなかった大学生活となりましたが、素敵な友人たちに恵まれ、何にも代えがたいかけがえのない日々を過ごすことが出来ました。よく遊び、人並みに学業にも専念していたはずが、気づくとまわりはリクルートスーツを着た友人で溢れており、学校の先生になるという道が途絶えてしまっていた私は頭を抱えました。せめて近しい仕事に携わりたいたい、人の役に立てる道へ進むことを決め、紆

余曲折を経て現在に至っております。

新社会人として一発目の勤務地が青森県弘前市にある弘前総合医療センターでした。はじめての社会人、はじめての場所、はじめての一人暮らし。はじめてのことが一度に重なり、不安と緊張でどうにか頑張ってしまいましたが、私はとことん運が良いのか、ここでもまた人に恵まれました。少しだけ、私の大好きな先輩の話をします。同じ係の先輩で、弘前にいた二年間、一番お世話になった方です。私が津軽弁を聞き取れるようになったのはその方のおかげといっても過言ではありません。はじめて覚えた津軽弁は、*「だらっこんでした。小銭のことです。かちゃましい」*も覚えしました。イライラするとか、鬱陶しいとかの意味です。「あゝかちゃましいー」と、その先輩はよく言っていました。私はそれを聞いて隣でよく笑っていました。辛いことも

ありましたが、逃げることなく頑張れたのは、
そういった先輩のおかげでもありました。

このように振り返ってみると、私は周りに
いてくれた人たちにかけていただいた言葉
や、支えのおかげでここまでやってくること
が出来ていて、それはきっとこの先も変わる
ことはないのだろうと思います。そして同時
に私自身も常に誰かのためになれる人であり
たいとも思います。この度、こうして東北新
生園で働かせていただくことになりましたが、
直接的に出来ることが少ないにしても、
一職員として皆様のためになれるよう業務に
励んでいきたいと思っております。未熟なが
らも日々出来ることから地道に頑張っていき
ますので、どうぞよろしくお願いいたしま
す。



随筆

「茨城県の里帰り」

齋藤 照雄

昭和四十二年、茨城県の者、私を含めて四
人が岩手県人会の里帰りに同行させていただ
き、大変お世話になった。その後も私を除い
て四人が幾度か同行し、お世話になった。そ

こで、「お礼として厚かましいお願いで申し
訳ないが、他県の同行者を含めて四十五人で
県の里帰りをしたいが面倒見ではもらえない
か。」と茨城県にお願いしたら「そんなにお
世話になったのならこちらでもお世話させて
いただきますから、どうぞお越しくださ
い。」と快いお返事をいただいた。もちろん

新生園の茨城県人会からも同様のお言葉をい
ただいた。

そこで準備をし、当日サル小屋前の駐車場
から夜八時に出発。その頃は宿泊場所を見つ
けるのもままならず、バスの中で寝泊りの二
泊三日だった。

園の門を出て、瀬峰、高清水、まだ高速道
路がなかったため、国道4号線をひた走り岩
沼で四号と別れ国道六号線へ。バス後方にい
た女性二人に、お酒と美味しいつまみをご馳
走になり楽しい旅が始まった。

宮城から福島を経由し茨城の十王町を通
る。ここは人工衛星の追跡場所として知られ
ている。衛星電波をキャッチし富士山のパラ
ボラアンテナに送信、NHKの中央放送局
へ。それから道府県の放送局へと送られる。

そして、午前五時に日立市に入りトイレ休
憩し、水戸の県庁に六時半頃に到着。県が用

意してくれた朝食をご馳走になり、担当官の話を聞いた。

岩上県知事の考案で、日本で例を見ない規模の鹿島開発が行われた。県の職員二〇〇人の大デリケーションで大蔵省に赴き、陳情を行った。大蔵省は県の職員二〇〇人が熱意をもって陳情を行ったことは、余程の決意があったものと感動し、見積額より上乗せした額の予算が計上されたと、その喜びの話を担当官がしてくれた。そこへ岩上知事が訪れ「皆さんようこそおいでくださいました。これから色々な所を担当官の案内で見学して行ってください。」とお言葉をいただき、団長が「お世話になります。よろしく願います。」と挨拶をした後、知事を真ん中に記念撮影を行った。

記念撮影を終え鹿島神社を参拝し、そこで昼食。いよいよ鹿島港の港建設現場へ。

送られ県庁を後にした。夜にかけての運転になるため、車内前方では運転手にもう一人の運転手と団長が話かけていた。国道六号線をひた走り六号線と別れ、四号線に入り朝六時四〇分頃瀬峰に着いた。団長が園に電話で迎えを呼び、サル小屋の駐車場に七時に到着。

長かった茨城の旅が終わった。

センター七夕飾り



今話題のミャクミャク。
太谷翔平とデコピンもいます

ドラえもん、アンパンマン、
こけしもかわいいです



その日は作業員がいなく、展望台に登り荒波を見ていたが、波に巻き込まれそうに感じ急いで下りてきた。他の皆も次々に下りて来てバスに乗り込み水戸の県庁に向かった。途中、水戸市の土産売り場で土産を買い、県庁へ到着。四時半頃から知事等と楽しい夕食会。岩上知事より「お疲れ様でした。色々見学できましたか。これからも皆様の希望に添うよう努力しますので、また来年も里帰りをしてください。」と挨拶をもらった。団長が「色々お世話になり、ありがとうございます。感謝します。」と互いの挨拶の後、担当官の音頭でビールとジュースで乾杯し楽しい夕食会が始まった。知事は都合で途中退席したが、県の職員と暫しの間夕食会を続行し、六時にお開きとなった。

帰園の準備をして、八時に県職員数名と接待に当たってくれた藤楓茨城の御婦人達に見

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《自分らしく咲く》

芽 生

同じ花壇の柵の中
同じ日に同じ場所に植えた花
同じ花でも違う成長速度
周囲の期待に応えようと背伸びしてみた
ひょろりと伸びた痩せた茎

小さな花は申し訳なきように俯いていた

自分らしく咲く

それはどんなに難しいことが
自分らしきとは何だろう

痩せた大地に頼りなく咲く

ぐらつく根は必死でしがみついていた

爽やかな風に乗る花の香りがした

あれは鮮やかな大輪の花

美しく誰からも見つめられ

称えられている花

朝露の滴に隠してこぼした涙

冷たくてつんとした

お日様に恥ずかしくて上げられない顔

葉っぱの上に乗った滴にお日様が映る

良いよそのままが良いよ

お日様が励ましてくれた気がした

成長の速度は違うよ

みんな同じで無くてもいい

自分らしく咲く

無理しないことが大事なこと

我慢は美德じゃないよ

だから自分らしく咲く

【選 評】

《自分らしく咲く》

芽 生

自分らしく、という思いがしっかりと込められており、読み手を納得させる前向きな表現、活力も見事。とても優れた一篇と言える。

作品「ありがとう世界」「ありがとう」等の言

葉を使う場合、常套句になってしまふことが多いので注意してほしい。

《義肢を履いた喜び》

齋 藤 照 雄

私はハ氏特有の裏傷を

土踏まずにつくり悩み苦しんでいたが

それが悪化し診察を受けた

すると「レントゲンを撮ってみよう」と

ドクターに言われ撮ってみると

膝下に骨膜炎を起こしていた

ドクターが「このままにしておくと

腿から切断するかもしれない

菌が体内に入ると命に係わる」と言われた

こっぴどい結果が出ると僕としては

切断を希望する

「患者さんが嫌だと言えばやらないが

もし切断するとしたら
即答は無理だろうから
月曜に来るから切断するか否か
考えていくれたまえ」
私は命に係ると聞いたので
切断する事を決意し
月曜日にドクターに伝えると
「水曜の午後に手術をしますから」
と言われた
当日腰麻を打って左足を切断した
次の日ドクターが病室に来られ
手術の傷を診て
「ああ上手くいったな」と言っ
帰って行った
そうして十日程経って抜糸をした
暫くして臨時の装具士に
義肢を作ってもらった
履いてその辺を歩いたら傷ができた
私は浅はかな考えで

義肢を履けば傷ができないと
思っていたから
不満に思い装具士に尋ねたら
「新しいのを履く時に合う人もいるし
合わない人は傷を作ったり
治したりしながら
固めていくしかないんだよ」と言われた
私はその言葉に抵抗を感じたが
ふと気が付いたことがあった
それは初めて松葉杖をついた時
脇の下と親指に傷を作ったことがあり
それを思い出し
装具士の言葉に納得した
暫くして専門の装具士が来ると聞いたので
臨時の装具士と相談して
どこに傷が出るのかを
話してみる事にした
そして「断端部と左膝の骨の所に
傷ができるんです」と伝えた

装具士が暫く考えて
「断端部に穴を開けよう
それと左膝の当たっている所に
窪みをつけよう」と言っ
直してくれた
私は直してもらった義肢を履いて
長い廊下を歩いたり
隣の寮へ続く長い坂道を歩いたりして
部屋に帰り義歯を脱いで足を見てみると
傷ができていなかったのだ
ひとり喜んだ
すると偶然にも寮友が
「晩限りで旅行を計画したから
一緒に行かないかと誘ってくれた
以前の私は色々な所へ出掛けていたが
足を悪くしてから
旅行には行けていなかったのだ
「行く行く」と言い
「晩だけの旅行に出掛け
色々な所を歩いて回った

歩き回った旅行から戻って
義肢を脱いで足を見てみると
ひとつも傷ができていなかったから
二人の装具士に感謝し
私はひとりしみじみと
義肢を履いた喜びに浸っていた

【選評】

《義肢を履いた喜び》

齋藤 照雄

本当は大事なのに、躊躇なく腿からの切断を選
択したこと、その後の淡々とした経過に驚く。体
験からくる余裕なのか、達観なのか、自身を客観
的にとらえることの潔さを改めて感じた。

短歌

皆川二郎選

◇入選◇

山門に幟^{のぼり}はためき出店立つ祭り囃子に
心おどりぬ 芽生

【選評】

寺院などの正門に祭典などの際に立てるのぼり旗が立ち、出店も並び、祭り囃子が鳴ると心が浮き浮きとして、おどるような気持ちになる。という作者の心情が良く伝わってくる一首であり、同感させられる。

歌多 眠寝子
夏霧と緑の木々の時流れ静寂の中に現世を隠す

【選評】

夏の霧が立ち、深い緑に覆われた木々とともに時が流れていくのは、静寂の中に現世を隠すようである。という作者のゆつたりとした心情と共に相まって、作者の豊かな感性に心打たれた一首である。

今野 モトイ

願い込め夢で会いたいもう一度七夕の
夜あの人思う

【選評】

七夕の夜に、夢でも良いからもう一度あの人に会いたい。という願いを込めている作者の心の叫びのような願いが、叶えられることを

今野 モトイ

願い事あれもこれもと書ききれず世界
平和を一つ書きたり

◇佳作◇

芽生
掃き集め集めては掃く繰り返しきさや
くごとく木ノ葉鳴りつぐ
宮城米他県に負けぬ米どころ伝統の味
守り伝えぬ
遠くから笛の音響き靴取りて急ぎ履き
ゆく焼芋買わむ

歌多 眠寝子

早朝の朝霧隠す涼しさよ猛暑の夏にな
るとも知らず



俳句

小松温美選

◇入選◇

野外食緑の風に吹かれつつ 齋藤照雄

【選評】

緑は、芽吹いたばかりの若葉や木々の緑のこと。希望や生命力を感じさせる風に吹かれての楽しい食事が浮かぶ。

水香る暈を広げた月ほのか 芽生

【選評】

暈を広げた月に魅せられ佇んでいると、どこからか水の香が漂ってくる。春を感じさせるほんのりした柔らかさを感じる新鮮な句である。

冬の使者迎え伊豆沼賑やかに 齋藤照雄

【選評】

伊豆沼の冬の使者と言えば、白鳥。今年もV字の隊列を組んでやってきた。鳴き声の聞こえてきそうな臨場感のある句。

◇佳作◇

齋藤照雄

狂い咲くつつじ見ようと長い列
寮の空どこへ行くのか雁の声
春や春あこの丘歌弾む
窓開けて花見ナースとヘルパーと
藤の花慎ましやかに艶やかに

芽生

名月に捧げし実りほのかな香
青空にいなご飛び交う藁の先
川面行く紅葉の朱よ何処へと
明けのとき白む川岸四十雀
里の秋日暮れに香るきのこ汁



川 柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《天位》

物価高低所得者を虐め

齋藤照雄

【選 評】

物価高に大いに影響しているのは年金暮らし。字足らずではあるが、緊急性の迫るモチーフだからこそだろう。下五の措辞「虐め」の止めが、緊急性を語っている。

《地位》

長沼蓮花

物価高畑を眺め一安心

【選 評】

猛暑の夏の値上げラッシュに悲鳴を上げているが、この物価高に畑の実りは心強い。ただ、水不足に畑も乾ききつて安心も束の間かもしれない。ともあれ、値上げ対策の畑も可の時代でもある。

《人位》

芽 生

コレクターこだわり無くばごみ屋敷

【選 評】

蒐集家としてこだわりで集めたものでなければゴミだ、と言う。「ごみ屋敷」は、町内の迷惑であり衛生や防災にも関わる。モノ余り時

代の風俗、時代の象徴でもあろう。

◇ 佳 作 ◇

今 野 モトイ

語り部はおばとやらが良く似合う

齋藤照雄

雨上がりさくら輝く散歩道
桜咲きみんなニコニコ見上げてる

長沼蓮花

経口補水液腰にぶら下げ散歩道
食卓を彩る祖父の夏野菜
体重増ぎつくり腰も顔を出し

千 歩

炎天下コンビニ直行かき氷
集う夏ヤsshヨウマカシヨと舞い踊る
きれいだね褒めてトマトも赤くなる

芽 生

ネット見てフリマアプリに踊らされ
わかるよね言葉にせねば伝わらぬ

よろしく願います

看護師 道 善 美枝子

令和七年四月より第一メープル二階に配属となりました、道善（どうぜん）と申します。

福島県福島市で生まれました。出生時、低体重、呼吸状態も優れず医師から厳しい状況だと言われたそうです。幼少期、よく父から「生まれて一ヶ月、ガラス箱に入ってたんだ。やっと息してたんだぞ。」と聞いていました。大きく生まれた年子の妹と色違いの服を着ていると「双子かい。」と声を掛けられた事もありました。

身体虚弱でしたが、緑豊かな山道通学、遊びは木登り・沢蟹取り・ザリガニ釣り・野球、

勤務し三ヶ月程経ちました。今までとは勝手が違うため、失敗ばかり、丁寧に教えて頂いた事も頭に入っていない事もありました。皆様にはご迷惑をおかけしている事と思いますが、職員の方々をはじめ、入所者の皆様にも優しく接して頂いている事に感謝しております。少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りますので、これからどうぞよろしく願います。

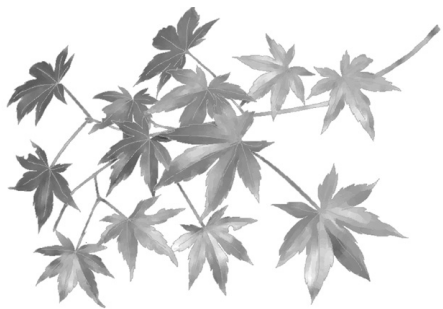
夏は水泳、冬はソリ滑りと逞しく育つ事ができました。

多くの方々に助けて頂いた命であり感謝し医療に携わりたいと看護師になりました。

働きながら看護学校へ行き、国家資格取得後は、公立藤田総合病院で勤務し、ご縁あつて令和元年に国立療養所松丘保養園へ入職し今回、転勤となりお世話になることになりました。

登米市は、初めて来ましたが、緑豊かな山、田園の景色が福島と似ていて安らぎます。次々と花も咲き、桜・あやめ・ジャーマンアイリス等々、今は、蓮の花が咲くのを楽しみにしています。また、ふきのとう・蕨・筍・梅の実、これからブルーベリー・柿・いちじくが採れるという恵の山に驚いています。

山が大好きなので、自然を感じながら従事できることは、幸せな事です。



はじめまして

看護師 亀川 初美

令和七年四月一日より松丘保養園から異動して、第一メープルケアセンター二階に配属となりました。亀川初美と申します。出身地は、下北半島にあるマグロが有名な大間町の隣、大畑町です。昔は、イカ釣り漁が盛んな漁師町でしたが、現在は海峡サーモンの養殖を行いインターネット販売もしています。観光地として、日本三大霊園の恐山や寒立馬がいる尻屋崎があります。田舎町ですが、帰省するとホッとして癒されます。高等看護学校の入学を機会に青森市に居住し卒業後、松丘保養園に入職させて頂きました。当時、新人

です。また、最近の楽しみは、大相撲を見ることです。昨年の夏に青森市の巡業を観戦してから推しの力士は、大の里です。対戦をドキドキしながら見て応援しています。巡業に行った際に大の里とのスナップ写真とサインを家宝として飾っています。もちろん栗原市出身の時疾風も五月場所から応援しています。

話は変わりますが、勤務して二か月が経ちました。慣れない環境（建物・人・仕事）で覚えることが沢山あり、頭がパンパンになりそうですが、職場のみなさんには、とても親切にご指導を頂きながら勤務できていることに感謝しています。自分は、心配性なので同じことを何度も聞いているのではと不安になります。センターの入所者さんも優しく、いつも笑い声が絶えない職場だと感じています。東北新生園は、広大な土地に様々な山菜

の自分に対して、入所者さんよりハンセン病の歴史や外科処置で包帯巻きを手取り優しく教えて貰ったことが記憶にあります。松丘保養園の在職中に結婚・出産・子育てとあつという間に時間が過ぎました。その後、神経難病や重症心身障害児（者）の施設である国立病院機構青森病院、八戸病院の勤務を経て、再び松丘保養園の勤務となりました。昨年、還暦を迎えましたが、雇用延長するに当たり、家族との時間を大切にしたいと考え、仙台に居住する娘夫婦の子供（初孫）の小学校入学を機会に同居して、娘の育児の手助けをすることを決心しました。日々、賑やかな生活を過ごしています。休みの日は、はじめは一緒に孫と四〇分歩いて登校していましたが、現在は友達もできたので仲良く学校に行くので安心していきます。孫が、元気に「ばあばあ、ただいま」と、帰宅するのを家で待っています。

が収穫できることに感動いたしました。勤務して間もない頃、入所者さんと一緒にフキノトウやわらび採りで夢中になりました。これからも入所者さんと散歩しながら、いろいろな山菜を採り、美しい樹木・花々を見て季節の移ろいを実感し、一緒の時間を共有していきたいと思っています。個々の入所者さんが、その人らしく安心・安全に穏やかな生活が送れるようにライフサポートさせて頂きたいと思っています。よろしくお願い致します。

百合

事務助手 遊佐 三枝子

昨年に三本ほど移植した百合の花が地下茎を伸ばして増えました。たった三本の百合根からまさかこれほどまで増えるとは思っていませんでしたので嬉しい誤算でした。

百合の花を移植するには適していない乾いた大地、大きな石がいくつも埋まっている土地の上にブロックで囲いを作り、土と肥料を混ぜ込み耕しました。

小さな移植ベラではとうてい間に合わない。このために購入していただいた鋤（鍬のフォーク状の刃が付いた物）で汗水流した甲斐があり、移植した年には見事な花を咲かせ、



今年度はまるで大きな花束のように見事に大量のつぼみを付け、背丈も伸びて、花開く時を今か、今かと待ち望んでおりました。

姿はもちろんのこと、これだけたくさんのお花となり、一斉に咲き出した時にはわずかな風にも香る凛とした香り。外でのことなので心地良く香る程度なのですが、室内にあつてはなかなか濃厚な香りとなつてげんなりしそうですね。何事も程々が良いのでしょね。

とにもかくにも花と言うのは一見気難しく手間暇がかかり、時には失敗も重ねながら、ようやく成功へと近づいたような気がします。まだ成功ではないのかと思われるかもしれませんが、此度の成功を踏まえ、更なる改良と修正を重ね、より入所者の皆様に喜んでもらえるような花壇作りに再び精を出していきたいと思っています。



四コマまんが

作・太田 凜

